令和2年5月

山梨ライトハウス

第87号

発行／社会福祉法人 山梨ライトハウス　〒400-0064 甲府市下飯田2-10-1
TEL/055-222-3502 FAX/055-233-0124 URL http://yamanashi-lighthouse.or.jp/

情報文化センター　電話／055-222-3502
貸出・用具専用／055-223-1113
青い鳥ホーム　電話／055-252-8994
青い鳥成人寮　電話／055-224-5060
青い鳥支援センター　電話／055-267-7480
青い鳥老人ホーム　電話／0553-26-6631
青い鳥ケアホーム　電話／055-235-5566

社会福祉法人 山梨ライトハウス

山梨ライトハウスの理念は「視覚障害者の未来（あす）を照らす光の道標（みちしるべ）となること」です。

CONTENTS

巻頭言……1
はじめまして／謝状・表彰状を贈呈……2
情報文化センター／青い鳥老人ホーム……3
ライトハウスニュース……4・5
ボランティア紹介／交流お楽しみ会……6
新人職員紹介／陶芸作品ができるまで　7
お知らせ……8

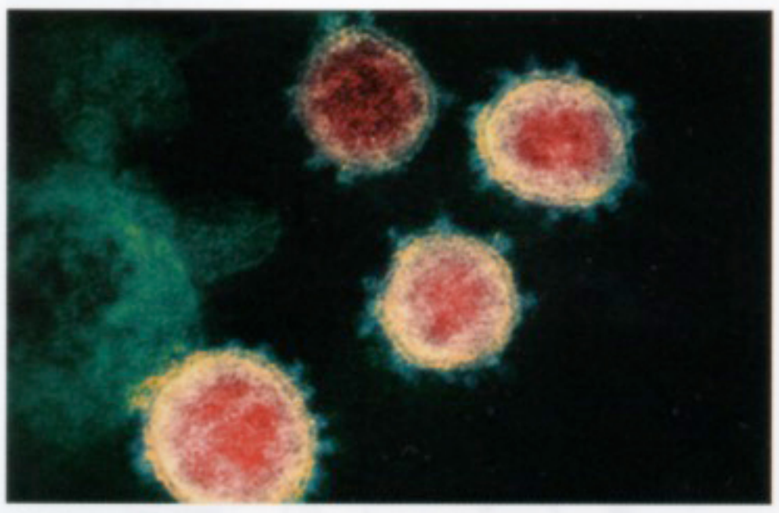
新型コロナウイルス

山梨ライトハウス
理事長　萩原　満治

二〇一一年正月。東京・いずみ野市立病院。ある日、救命救急医のもとに、一人の急患が運び込まれてくる。高熱、けいれん、吐血などを発症し、多臓器不全に冒されていた。治療を進めるが、あらゆるワクチンも効果がなく、患者は死亡してしまう。

正体不明のウイルスは、病院の医療スタッフや患者たちにも感染し、病院はパニック状態に陥ってしまう。感染拡大は院内にとどまらず、全国に広がっていく―。

これは二〇〇九年に公開された映画『感染列島』（東宝）の冒頭である。十年以上も前の映画を話題にしたのは他でもない。日本医師会の横倉義武会長が三月末、新型コロナウイルスによる患者で病床がほぼ満杯となっている状況を説明し、緊急事態宣言を早く出すことを求めた。


新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真

会見の中で横倉会長は「お若い方は『感染列島』という映画をご存知ないようだが、ぜひ観てほしい」と訴えたのだ。

映画の中では、病院内隔離を皮切りに地域封じ込め対策を取るものの、失敗。都市機能や交通機関の停止、政府崩壊、消えゆく人類…という最悪のパターンが展開される。

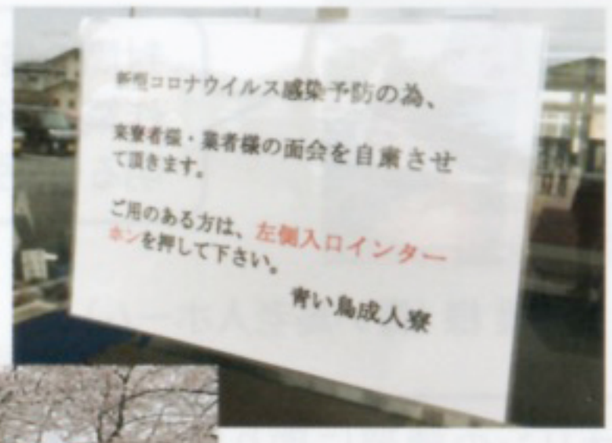
日医会長の訴えから一週間後の四月七日、安倍首相は緊急事態宣言を出した。中国・武漢市で原因不明の肺炎患者を確認したのは昨年十二月八日。日本では一月十六日に武漢市に滞在歴のある男性が初確認された。

この原稿を書いている四月上旬、日本の感染者は五千人に迫り、死者は百人を超えた。世界では感染が確認された国は二百カ国を超え、死者は六万八千人近い。これほど短期間で世界的に感染者が増加した例は少ない。新型コロナウイルスの流行は、これまでの世界を変えてしまった。

国境を越えて物や人が移動するグローバリゼーション。世界の成長を支えてきたグローバル化だが、今は大きな試練に直面している。人の移動によるリスク。厳しい入国制限は感染の拡大を防ぐ一方で、観光産業や経済に大きな影響を与えている。

地域で感染者が報告されると、私たちは自分自身を隔離することを強いられる。それが社会全体の安心、安全につながることを自覚しながら。一方で、春に浮かれて繁華街へ繰り出した若者たち。日医会長は、そんな若者のはき違えた自由に警鐘を鳴らしたのだ。

『山梨ライトハウス』第八十七号が発行される五月、新型肺炎パンデミック（世界的流行）はどうなっているだろう。まったく予測もつかない。映画『感染列島』では半年が経過してようやくワクチンが完成し、パンデミックは沈静化に向かうシナリオだが…。



青い鳥成人寮の玄関には、面会自粛の張り紙が張り出された

公園の桜の花見会場はコロナウイルス対策で立ち入り禁止となった

はじめまして

山梨ライトハウス法人事務局長（青い鳥成人寮施設長兼務）
安藤輝雄

本年一月に青い鳥成人寮施設長代理として勤務させていただき、四月に、法人事務局長及び青い鳥成人寮施設長に就任させていただきました安藤です。

私は大月市の七保町というところで生まれました。生家は、山間の集落の最も奥にあり、当時の最寄りのバス停まで六キロ、中学校まで八キロありました。無人となった生家は、東京の法人に貸していますが、頻繁には利用していないので、今では家の周辺は、鹿と猪たちの楽園となっています。こうしたことから、テレビの「ポツンと一軒家」にはとても親近感を持っています。

現在は、甲斐市大下条に、妻＋愛犬（メイ）と住んでおり、散歩をしたりしてメイと一緒に過ごすことが私の趣味となっています。

メイは、動物愛護指導センターにいた何頭かの子犬のうち、妻と最初に目が合った最も気の弱そうな子犬で、柴犬まがいの正真正銘の雑種です。

メイには、怖いけれど大好きな人がいます。我が家の真ん前にある、お寿司屋さんのご主人です。ご主人は職業柄声が大きいので、憶病なメイは怖いのですが、寿司ネタの卵焼きをもらえるので大好きなのです。散歩帰りにご主人に会えた時にはいつももらえますが、会えない日が続くと、時々、出前で届けてくれます。この時の、ご主人とメイの駆け引きがとてもほっこりとさせてくれます。

メイが我が家に来てから十三年が過ぎ、犬年齢換算表によると六十八歳で、私より高齢になりました。今後も老々仲良く暮らしていきたいと思っています。

縁あって山梨ライトハウスにお世話になりますが、これまでと同様に、「仕事には厳しく、人には優しく、職場は明るく」をモットーとして努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いします。

感謝状・表彰状を贈呈

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、役員会席上での贈呈はかないませんでしたが、萩原理事長より次の皆さまに感謝状並びに表彰状が贈られました。

【感謝状（福祉功労者）】

ボランティア活動を通じて、５年以上継続的に活動し、障害者福祉の向上に尽力しその功績が特に顕著で他の模範と認められた方に贈られます。

・上野　元子 様（青い鳥奉仕団 点訳奉仕）
・河口　　恵 様（青い鳥奉仕団 音訳奉仕）
・佐藤　美代 様（青い鳥奉仕団 音訳奉仕）
・内藤　文子 様（青い鳥奉仕団 音訳奉仕）
・平嶋　敏子 様（青い鳥奉仕団 音訳奉仕）

【表彰状（永年勤続者）】

施設職員として 10 年以上勤務し、その功績が顕著で他の模範と認められた職員へ贈られます。

・塚原　　司 様（青い鳥成人寮）
・笹本　　稔 様（青い鳥老人ホーム）
・伊藤真理子 様（青い鳥支援センター）

【いきいき輝き賞】

障害を克服し自立生活、生涯学習、社会参加などに積極的に取り組み、心豊かな生活を営み、いきいき輝いて生活するとともに、他の利用者の模範と認められた方に贈られます。

・石原　松子 様（青い鳥成人寮）

封筒の袋入れの仕事や陶芸作業、歩行訓練に取り組み、明るく頑張っています。

・小松　静雄 様（青い鳥老人ホーム）

バイオリンの練習に取り組み、愛好会の講師が主催するコンサートに出演しました。

皆様、おめでとうございます！

山梨県盲人福祉センターから「情報文化センター」へ名称が変わりました！

昭和二十九年に「点字図書館」としてスタートし、昭和五十六年四月からは「山梨県盲人福祉センター」として、皆様とともに歩んできました。時代の推移に伴い「盲人」という言葉は消えつつあり、利用者もロービジョンの方が増えてきましたので、令和二年四月一日から「情報文化センター」と名称を変更いたしました。

皆様に身近な情報をお届けし、蔵書貸出などをとおして文化向上のお手伝いができるよう、職員一同励んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

建物の内部を中心に改修し、快適にご利用頂けるようになりましたのでご紹介します。

そのほか、2階の研修室は「多目的室A」、ボランティア室は「多目的室B」と名称変更しました。来館者の方からは、雰囲気が明るくなり、ドアなどは木目で温かみのある印象になったとお声を頂きます。皆様のご利用をお待ちしています。

コントラストがハッキリした看板

1階「点字交流ルーム（旧　点字印刷室）」

お手洗い入口に設置されたレイアウトパネル

各部屋へと誘導する点字ブロック

研修会での成果を発表「より良い利用者支援に向けて」～青い鳥老人ホーム～

「スピーチロック」は、言葉や態度で対象者の身体的・精神的な行動を抑制することです。普段何気なく使ってしまう「ちょっと待ってね」などの言葉もスピーチロックにあたります。

当施設は養護老人ホームではありますが、年々利用者の高齢化や重度化が進み、車椅子を利用する方や認知症状のある方も増えています。特に毎日の支援の中で、認知症状のある利用者に対しての接遇については、難しさを感じる場面が以前に比べて多くなっています。こうした利用者に対しては、ともすると日常業務に追われてつい口調が強くなり、「座ってて」「部屋に帰って」等のスピーチロックにあたるような言葉かけになってしまうことがしばしば見られるようになってきました。

こうしたことから、利用者の尊厳を保つと言う基本に立ち返り、今一度支援のあり方を見つめ直すため、職員全体で「スピーチロック」や「アンガーマネジメント（怒りをコントロールする技術）」、「認知症」についての研修を行うこととしました。「そうは言っても同じ訴えをされることには不満や負担」との声も聞かれる中で、改めて「スピーチロック」の影響を伝え、言葉かけの時にどの様に言い換えたら効果的であるか学びました。

その上で利用者に対しての「対応の仕方のマニュアル」の作成を行い、一つ一つの訴えに対する言葉かけを検討し、実際に行って成功した例とそうでない例をまとめました。そして、それぞれが工夫した言葉かけも職員で共有することが大切だと気付かされました。

こうした取り組みをまとめて、本年二月の県老施協研究総会で「スピーチロックのない施設を目指して」と題して発表したところ、関東大会出場という評価をいただくことができました。

「スピーチロックをしない」と言うのは簡単ですが、利用者への対応は根気を要します。対応する職員だけの問題として捉えていては、なかなか根本的な解決にならないことから施設全体で取り組んでいます。

今後はより良い利用者支援に向けて、職員同士で不適切な言葉かけを注意し合える環境づくりに努め、利用者が幸せを感じられる青い鳥を目指します。

ライトハウスニュース

NEWS NEWS NEWS

●情報文化センター●

移動ライトハウスin山梨市

二月九日（日）街の駅やまなし（山梨市地域交流センター）で開催されました山梨市視覚障がい者福祉協会主催「視覚障がい者用具体験会並びにバリアフリー映画上映会」へお邪魔してきました。

午前は、白杖や時計、測定計、キッチングッズ、ロービジョングッズなど最新の用具を体験して頂いたり、便利グッズなどの販売も行い会員の皆様に大好評でした。

午後は、市民の方も加わり、バリアフリー映画「天国からのエール」の上映会を行いました。来場者からは、「音声ガイドが背景の説明にとどまらず、俳優の顔の表情まで解説がありとても分かりやすくて良かった」などの感想が寄せられました。今年度も皆様のお住いの市町村へお邪魔させて頂きたいと思いますので、是非情報をお寄せ下さい。

上映会前の映画紹介

用具の体験をする視協会員

便利グッズの販売

●青い鳥成人寮●

冬の感染症対策

冬と言えば、クリスマスパーティーをしたりお正月にごちそうを食べたりするのが楽しみです。反面、風邪をひいたりインフルエンザにかかったりと、気温の変化で体調を崩しやすい時期にもなります。成人寮では今年も体調を崩さないように感染症対策に取り組みました。作業や活動を男性と女性で別にしたり、食事の時間をずらしたり、一緒に過ごす時間をなるべく少なくしたり…。そして一番取り組んだのが基本である手洗いです。「しっかり洗うよー！」食事の前、食堂の手洗い場では毎度職員の声がこだまします。手のひら⇩手の甲⇩指⇩指と指の間⇩指先⇩手首。順番に擦ったら最後は消毒液で仕上げます。以前は手洗い場で立ち止まることなく席に向かう方や手に水を付けることすらも嫌がっていた方も、今ではしっかり立ち止まり手を洗っています。そのおかげか前の年よりも体調を崩す方が少なかったのです！

対策がストレスになるのを避けるために楽しい時間も確保しながら、皆が笑顔で元気に過ごせるようにこれからも取り組んで行きます。

きれいに洗えたかな

手洗いの後は消毒です

●青い鳥支援センター●

感染を広げないために!!

一月の中旬には「なんか怖いウイルスが発生したね。気をつけようね」なんて他人ごとのように話をスタッフ間でしていたのに、四月の頭にはあっという間に身近な恐怖として新型コロナウイルスを感じることとなりました。支援センターでは三月三日から各学校が休校措置になったことに伴い、日中一時支援事業の継続について検討を重ね、様々な対策を行っています。地域の中の拠点として何が出来るかをスタッフ間で話し合い、今後もお預かり時間と送迎の短縮を各家庭にご協力いただきながら精一杯対応させて頂きたいと思っています。そんな私たちの姿に温かい言葉をかけて下さる皆様には本当に感謝しています。「ありがとう」と手を握ってくださる利用者さん。「ぜひ使ってね」と、マスクや消毒液をご寄付してくださった家族の皆様。こんな時だからこそ皆様の温かい言葉が私たちの頑張る原動力になります。センターをご利用頂く利用者さんの中には生活リズムを崩す事が一番苦手とされる方もいます。支援の内容や対応の仕方を調整したり、今後もっと大きな災害が起きても今回の対応が生かされるようにご家族の方と工夫を重ねています。

この危機が早く収束することを願うとともに、保護者の皆様と一緒になってこの難局に対処していきたいと思います。頑張りましょう！

●青い鳥老人ホーム●

手作りマスクをありがとう

三月十七日、新型コロナウイルスの感染予防でマスクが不足する中、甲府市内の中学生・滝本妃さんが、小さなころから貯めたお年玉で布製マスク六百十二枚を製作し山梨県に寄贈しました。このニュースは全国的に報じられ、御存じの方も多いでしょう。この滝本さんの手作りマスク八十枚が、県から青い鳥老人ホームの利用者・職員に届けられました。この嬉しいニュースは、すぐに施設長から利用者に伝えられました。利用者は「ニュースで聞いた。偉い子がいると感心していた」「こんなに貴重なマスクを貰えるなんて本当かい？」と、驚きと喜びに溢れました。マスク配布時には色や柄を説明し、好みの一枚を選んでもらいました。マスクを着けると「柔らかい生地で顔にしっかりフィットする」「これを中学生が手作りしたのか」と、改めて喜びの声があがりました。ある利用者はマスクを受け取ると「ありがたいことだ。お守りとして大切にする」と涙を浮かべました。コロナウイルスで暗いニュースが多い中、心が温まるプレゼントでした。妃さん、ありがとうございました！

どの柄も可愛いね!

NHKやTBSでも取り上げられました

掛け心地はどうですか?

●青い鳥ケアホーム●

手作りコロッケ

皆で頑張って作っています

青い鳥ケアホーム第二棟の女性利用者と職員で昼食のコロッケ作りをしました。ふかしたジャガイモをつぶし、形を整える人・卵をつける人・パン粉をつける人に分かれ、流れ作業で行いました。皆で和気あいあいと話をし、時に大笑いしながら楽しく作りました。完成したものを職員が揚げ、男性利用者も含め皆でいただきました。大きさはまちまちですが、自分たちで作ったコロッケは、お店のものとはひと味違いとてもおいしかったです。

ケアホームではコロッケ作りの他、ホットプレートでのお好み焼き作りやサンドイッチ作りなどを行い、ホーム内の生活が単調にならないよう、また楽しみをもって生活できるよう努めています。

完成です

美味しいね

●青い鳥ホーム●

プペルバスのイベント

『えんとつ町のプペル』という絵本をご存じですか？日本人で初めてエッフェル塔での個展を行うなど世界的にも注目されている絵本です。スクールバスを改造して、走る個展会場『プペルバス』を作り、病気や何らかの理由で足を運べない子供達の元へ『えんとつ町のプペル光る絵本展』を届けようという全国プロジェクトが始動し、山梨県での日程のひとつに選ばれたNPO法人オールWINさんのイベントに参加しました。

事業所の一角に、無料マッサージコーナーと青い鳥成人寮の陶芸品販売コーナーを設けていただき、絵本展を見に来たお客さんが大勢、立ち寄ってくださいました。

また、交代でバスの中に入って絵本展も見ました。画の枠やバスの内部を触ったりして皆さんで体感できました。物語の主人公ルビッチは、煙に覆われた世界で亡き父から聞いた「星」を信じ続け、体はゴミの寄せ集めだけど心を持つプペルとともに星空を見つけます。光をあてて浮き出る、ステンドグラスのような星空の画は、本当にキレイでした。そして、信じること、互いを認めることの大切さを気付かせてくれました。

イベントに参加した二月十一日から数カ月の間に社会は激変しましたが、寄稿にあたり、改めてそのことを感じています。

いらっしゃいませ～

大盛況のマッサージコーナー

主人公と同じシルクハットをかぶって…

ボランティア紹介

山梨青い鳥奉仕団　点訳部　長戸　美子

私が点字を習い始めたのは、昭和五十三年九月頃です。通信指導で一年、更に一年間ボランティアセンターへ講習に通いました。

そんな時、八代英太の書いた「負けてたまるか車椅子」の点訳書を見て感激し、本点訳への思いは募るばかりでした。あの頃の私は、子育ても終わり、自分の生きがいを探していたのだと思います。やっと本点訳が出来るようになった時には、職場の昼休みにも、点筆を握り、コツコツと白紙に穴を開けていました。「小児病棟」「生きる日々」「E. T.」「鍵」等と、張り切っていましたが、諸事情の為に長い空白を作ってしまいました。気が付いた時には、既にパソコン点訳に変わっていたのです。私は、ボランティア精神はさておいても、点訳の作業が好きだったのです。早速、平成七年に、パソコン点訳の修了証書を頂きました。更に空白を続けながらも、点訳復帰への思いは、いつも頭から消えませんでした。やっと、ここ三、四年、青い鳥奉仕団の仲間に入れて頂き、グループの皆様の足を引っ張りながら、毎月の研修会を楽しみにライトハウスに通っています。

私の今の目標は校正の少ない正確な本を作ることです。校正をして頂いて、自分の浅学非才、そして、そそっかしさに、恥ずかしさでいっぱいです。それでも私はパソコンを打っている時が大好きです。今回知事表彰を頂いたのは皆様のご指導ご協力の賜と感謝しております。これからも精一杯頑張っていきたいと思います。

読者と山梨青い鳥奉仕団との交流お楽しみ会

山梨青い鳥奉仕団　伊東　庸子（点訳）　山田恵美子（音訳）

「読者と山梨青い鳥奉仕団との交流お楽しみ会」が二月十六日（日）午後一時半から山梨ライトハウス二階研修室にて開催されました。「交流会楽しかった」「また参加したい」そんな声と一緒に点訳本・音訳本の感想も聞きたいと思いながら準備を進めてきました。

交流会前日、会場への荷物の運び込みは塗装工事の為断念。朝早く来てすればいいかと軽く考え帰宅。

ところが当日は朝から大雨。心配事は山積みになりハラハラの連続でした。土砂降りの悪天候にもかかわらず、読者の皆さまにはご参加いただきありがとうございました。参加者数は昨年より若干少ない五十人ほどでしたが、例年通りの盛り上がりに安心しました。

今年の出し物は、青い鳥ホームの皆様による合唱、山視福協会長の落語、奉仕団員のミュージックベル演奏とみな素晴らしく会場は大きな拍手や歓声に包まれました。その後、お茶とお菓子を開けながらの交流会・歓談・ゲーム・プレゼントと会は順調に進み、最後は「パプリカ」を全員で合唱しました。

読者の皆さまからは、「交流会は毎年楽しみにしています」や「今年も楽しかったです。次も来たいです」と感想をいただき感激しました。ご協力ありがとうございました。今年の反省（肝心な本の感想聞き洩らし等）を生かし次回も楽しい交流会を企画したいと思います。来年も是非ご参加ください。お待ちしております!!

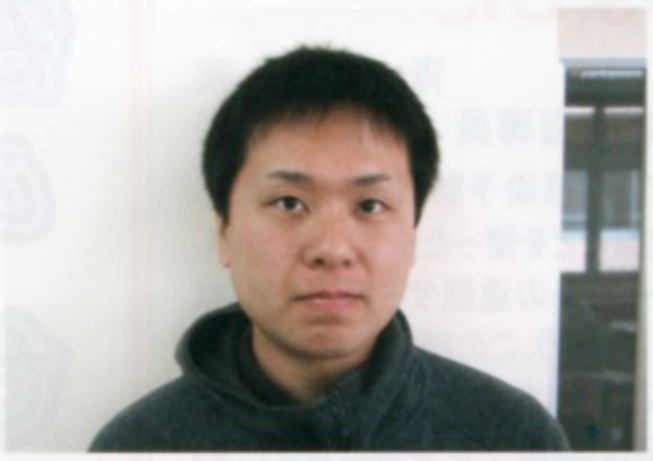
青い鳥ホームの利用者による合唱

山視福協の堀口会長による落語を楽しむ参加者

新人職員紹介

（令和元年7月～令和2年4月採用）

①氏名　②所属　③職種
④好きな言葉、または一言



①坂倉（さかくら）　誠（まこと）
②青い鳥成人寮　③生活支援員
④出来ることからコツコツと

①保坂（ほさか）　麻理子（まりこ）
②青い鳥成人寮　③ 生活支援員
④なるようになるさ

①千塚（ちづか）　英理（えり）
②青い鳥老人ホーム　③看護師
④百折不撓（ひゃくせつふとう）

①上野（うえの）　裕子（ひろこ）
②青い鳥老人ホーム　③ 支援員
④一生勉強　一生青春

①渡部（わたなべ）　晋也（しんや）
②青い鳥支援センター
③訪問介護員　④平穏無事

新しく採用になった皆さんです。よろしくお願いいたします！

陶芸作品ができるまで

青い鳥成人寮　生活支援員　松井　由貴

青い鳥成人寮の作業活動は、三つの班があります。今回は青い鳥成人寮の特色ともいえる陶芸作業の工程について紹介します。

まず、①粘土を作りたい物の形に成型します。フリーハンドで人形や壺を作ったり、粘土をピンポン玉程度に丸めて器の表面に貼り付けたり、筒状のものは粘土で作った紐を筒に巻きつけて作ります。視覚に障害のある方も指先の感覚を頼りに隙間なく粘土を重ねていきます。また、お皿を作る時には、機械で粘土を薄く伸ばし、お皿の型に切り取って〝皿型〟に乗せて作ります。

②作った作品を一～二週間ほど乾燥させた後、電気窯に入れて約八百度までゆっくり温度を上げながら軽く焼き固める〝素焼き〟を行います。青い鳥成人寮では赤土という種類の粘土を主に扱っており、素焼きをすると鮮やかなオレンジ色になります。

③素焼きした作品に釉薬（ゆうやく）を付けます。釉薬自体は白～灰色ですが種類によって焼き上がりの色が異なります。瑠璃、織部、白萩など十種類近い種類の中から作品の風合いにふさわしい種類を選んで付けていきます。この工程は技術的にも難易度が高く、陶芸を一から学ぶ職員にとっても大きな試練です。

④釉薬を付けた作品は再び窯に入れ〝本焼き〟を行います。本焼きは約千二百度まで温度を上げて焼き、完全に冷めるまで窯を開けられません。窯に入れてから出すまで約三日かかります。

⑤いよいよ最終段階。窯から出てきた作品の底など表面がざらついているところを利用者さんが丁寧にやすりがけをして完成です。

時間をかけ心を込めて作った作品は、毎年開催している展示即売会や地域のお祭りなど各種のイベントで販売しており、お客さんから「素敵な作品ですね」「毎年楽しみにしています」と声を掛けられることが利用者さんの励みになっています。

視覚障害のある方でも指先の感覚を頼りに隙間なく重ねていきます

お知らせ

第38回 長谷部賞の贈呈

受賞者　小林　誠 様

小林様は、平成15年度より山視福協理事として、17年の長きに渡り会の運営に携わってきました。特に、平成22年に本県で行われた日盲連関東ブロック山梨大会では、総務としてその企画・運営に尽力し、大会を成功に導いた功績は極めて大きいものがありました。その後も副会長を5年間務めるなど、常に中心的存在として会の発展に貢献しており、最近では、本会パソコンクラブ部長やライトハウス山梨ジャーナル編集委員を務めるなど、その活動は多岐にわたり会員からの人望も厚い方であります。

受賞された小林誠様

長谷部賞について

本県の視覚障害者福祉の父と慕われ、山梨ライトハウスを創設、山梨県盲人会（現・山梨県視覚障がい者福祉協会）また山梨青い鳥奉仕団を設立するなど、本県の障害者福祉の発展に半生を尽くされた長谷部薫先生の功績を永く記念するため、本賞を創設しました。

本賞は、昭和58年より毎年贈られていますが、永年にわたり視覚障害者の文化の向上と福祉の増進に尽力され、その功績が特に顕著な方々に贈られます。今回の受賞者もふくめ、これまでに44名の方が受賞されています。

オンライン訓練はじめました

青い鳥成人寮
機能訓練指導員　金山　佐保

新型コロナウイルス感染予防対策の一環として、4月1日から電話などを使った訓練を始めました。電話やインターネットの通話サービス、時にはビデオ通信サービスも使う、この訓練の方法をオンライン訓練と呼ぶことにしました。利用者の方の快いご協力のもと、4月の訓練予定全体に対して、約7割の訓練をオンライン訓練に置き替えることができました。

一番多いのは電話を使っての点字訓練で、他にも、電話でパソコンやスマートフォンの訓練をする方もおられます。お互いがお互いの状況を想像し、言葉で説明する「ちから」が求められると感じます。簡単ではないですが手探りでがんばっています。

電話の使い方の質問に答えます

インターネットのビデオ通信サービスを使い、利用者の方が自分の携帯電話を見せておられます。歩行訓練士が画像を確認しながら、使い方をお伝えします。

インターネットの通話サービスを使った点字訓練の様子です

利用者の方のお手元には点字のプリントがあり、歩行訓練士も手元で同じ内容を見ています。

川柳

（三月のライトハウス川柳会から）　浅川 和多留　選

コロナ騒ぎ石鹸ばかりがやせ細る　埜村　和美

老いてなお恋の残り火燃え上がり　細川　一

雑学に長けた心の底力　加藤　隆

幼い日節句祝いのお重箱　桑原　梅次

巷ではタピオカ求め行列が…　藤野ます子

ワクチンが無いとウイルス闊歩する　堀内　孝春

梅の香に誘われ友と弁当持ち　岡部　恵子

生きてゆく楽しみくれた声の図書　佐野　しま

米寿過ぎ丸い背中に陽の温み　本間りょう

ハグしたい二人の仲を裂くコロナ　萩原　満治

ラジオ日本ワイドFM待ち望み　相沢　幸雄

（青い鳥老人ホーム川柳）

母の背に心で願う頑張れと　松木　鏡

平凡な暮らしの感謝知らされる　影山笑美子

家ができ姪嬉しさに電話来る　三森　秋江

竜電にこれから強く応援を　佐野　武重

毎日が進化進歩で努力する　佐野　英夫

妹の孫の初産うれしいな　橋田喜美江

亡きあなた実りの日々をありがとう　森田　榮子

◎編集長　安藤輝雄　○編集委員　細川純子、小林康司、権守裕子、芦澤康子、小畑栄一、原田直幸
※皆様からの情報をお待ちしております。